



特別編

九州の逸品

KYUSYU NO IPPIN

FILE No.50



九州の「地域ブランド」を
ご紹介致します。

福岡

小倉織

こくらおり

美しいたて縞が特徴の小倉織は、
福岡県北九州市の伝統工芸品です。
一般的な織物に比べ、経糸に細い
木綿糸を約3倍も多く用いるため、
地厚で丈夫、なめし革のような風
合いを持ちます。今回は、小倉織を
復元・再生させた染織家 築城則子
氏にインタビューしました。



丈夫でしなやか

武士に愛された小倉織

豊前小倉（現・福岡県北九州市）の地で江戸時代から作り続けられてきた「小倉織」は、丈夫で質感がしなやかなことから武士の袴や帯として重宝されました。

徳川家康が鷹狩りの際に羽織として愛用したと記録に残っており、徳川美術館には江戸時代中期の狂言装束「縞小倉羽織」が収蔵されています。

明治時代には文明開化の波のなかで、男子学生服として、「霜降り」と呼ばれるグレー無地の小倉織を製造し、小倉木綿、小倉服の名で全国に広まりました。

しかし、昭和初期になると北九州の産業が重工業にシフトし、小倉織は一度途絶えました。それから数十年後、染織家 築城則子氏が試行錯誤をくり返し、1984年

（昭和59年）に小倉織を復元、再生しました。今回は、小倉織の第一人者である染織家 築城則子氏にお話を伺いました。

小さな端布から始まった

小倉織との縁

私は生まれも育ちも北九州市で、本を読むのが好きだったのでジャーナリストになることを夢見て、1971年（昭和46年）に早稲田大学文学部に進学しました。能楽を大成した世阿弥の研究で能舞台を鑑賞するうちに能装束の色に感銘を受け、自分でもこの色を創ってみたいという気持ちに駆られました。当時は学生運動の名残で授業が休講になることもしばしばで、大学3年の時、思い切って中退して染織の道に飛び込み、沖縄や信州で伝統的な織物を学びました。

染織家 築城則子氏

ついきのりこ



Profile・北九州市生まれ。染織家。日本工芸会正会員。「遊生染織工房」主宰。1984年に小倉織を復元して以来、国内外に小倉織の魅力を発信している。2008年、日本伝統工芸染織展・文化庁長官賞受賞。2012年、福岡県文化賞受賞。



小倉 縞縞

左.小倉織のバッグ。デザインへのこだわりだけでなく、作りも機能的。マチがあり、A4サイズの書類やファイルも入る
右.肌触りがよく生地が丈夫な撥水風呂敷。結んで、小さなバッグにするのもおすすめ

草木染めをし、紬を中心に織っていた1983年(昭和58年)頃、北九州市内の骨董店で、小さな端布に出合いました。白地に紺のたて縞で、なめし革のような質感、木綿でありながら絹のような光沢、くつきりとした縞——。すっかり魅了され、店主に尋ねてみると小倉織だと教えてくれました。たまたま心惹かれたものが地元の工芸品であったことに驚きと同時に縁を感じ、小倉織をなんとか蘇らせたいと思い試作を始めました。

2年近くの試行錯誤の末、手織りによる小倉織をようやく作り上げることができました。復元というより再生です。先染めの木綿の経糸に通常の3倍もの糸を立てて織る高密度の小倉織は、たて縞でしか模様を表現できないという制約があります。創作においては制約がある中で、どれだけ表現ができるかが、作り手の楽しみでもあります。

草木染めをした糸で
小倉織を織る

現在、北九州市八幡東区の山間に工房を構えています。工房の名前は「遊生染織工房」といい、平安時代(ようせいしんしゅう)に編まれた歌謡集『梁塵秘抄』の「遊びをせんとや生まれけむ」からとっています。

手織りの小倉織に使用する木綿糸は、山野で採集した草木の枝葉、樹皮、根、実などを工房の釜で煮だし、その液に幾度となく浸して、四季折々の色彩に染め重ねていきます。

草木染めは自然相手なので、自分の思った通りには染まりにくい。例えば桜の薄桜色を出すためには、花の咲く前の枝でないと染まりません。外から見ると緑の葉と茶色い枝の植物も、花を咲かせる前は内側に豊かな色を秘めているのです。

小倉 縞木綿帯



瀑音'04



漸



朧影



暁韻



小倉 縞縞

左.ハーフタオルハンカチ。今治タオルとコラボ。2つ折のハーフサイズでポケットに入れたときにかさばらずスマート
右.小倉織と相性の良いレザーを使用した革小物シリーズの長財布。シンプルなデザインで機能面も充実

糸を染め上げた後は、2,200本から2,400本の糸を丹念に整経せいけい（デザイン）していきます。染色から織りの作業まで、根気と集中力がいりますが、最終形のイメージを思い描き、完成までの工程を楽しんでいます。

機械織りを導入し

小倉織ブランドを

立ち上げる

草木染めで手織りの小倉織は一点制作の為、一年で作る数も限られ、価格も高価になってしまいました。また、約35cm幅の手織りは帯にはできても現代の日常生活の中にいかすことは難しいです。

そこで、小倉織をより多くの人に愛用して欲しいという思いから、機械織りを導入することにし、小倉織を製造販売する会社「有限会社小倉クリエーション」が

設立されました。手織り同様に私がデザイン監修を行い、実妹の渡部英子わたなべひでこが代表を務めています。2007年（平成19年）には小倉織ブランド「小倉 縞縞こくら しまし」を立ち上げました。織機による生産で幅の広い布も織れるようになると、用途が広がり汎用性に富んだ商品展開やさまざまな分野とのコラボレーションが可能になりました。風呂敷やバッグ、テーブルウェア、財布、カーテンや家具などにも小倉織が使われるようになりました。



草木染めをした糸

2009年（平成21年）からは、国内での発表と同時期に海外の見本市、メゾン・エ・オブジェやミラノ・サローネなどに出席し、海外進出をしています。

近年は建物の内装デザインとしても活用され、F F G北九州本社ビルの壁面や貴賓客応接室、九州労災病院の玄関ルーバー、待合室、病室などをデザインしました。

新工場を

小倉の地でスタート

おかげさまで小倉織ブランド「小倉 縞縞」が誕生して、今年で11年を迎えることができました。

実は、機械織りの小倉織を実現するまでの道のりは困難を極めました。地元小倉では昭和初期に生産が途絶えていますので、織り方を知っている機屋はたやさんは当然ながらありません。しかも、小倉織は

FFG北九州本社ビル



築城則子氏が貴賓客応接室のデザインを監修。高さ7mの壁面に無彩色の縞を表現。ピアノの鍵盤のような木材の凹凸と色の濃淡で立体感があふれる

FFG 北九州本社ビル 冬のイルミネーション「光の感謝祭2018」

点灯期間 2018年11月2日(金)～2019年1月14日(月・祝) 17:00～23:00

点灯式 11月2日(金)17:30～

地元大学生によるハンドベルコンサートや少年少女合唱団によるクリスマスLIVEなどを予定しています



築城則子氏がイルミネーションデザインを監修。縞をモチーフにした布と光のクリスマスイルミネーション(写真は昨年のイルミネーション)

緯糸の3倍もの経糸を機械にかけ
るため、糸が切れやすく、手間が
かかるので、今後の展開も見えな
い状態で、引き受けてくれる機屋
さんがなかなか見つかりません
でした。

そんな中、幸いにも「やってみま
しょう」と言ってくれる機屋さん
が筑後地区で見つかり、機械織り
を実現することができました。

それから11年。小倉織は手間が
かかるため、新たに引き受けてく
れる業者は少なく、注文に生産が
追いつかない状態でした。

そこで11年の節目に、地元小倉
で生産工場を稼働させることを
決意し、新会社「小倉織物製造株
式会社」を立ち上げました。代表
は姪の築城弥央が務めます。

北九州市小倉北区にある工場
を改修し、小倉織を中心とした
織物の製造工場として年内稼働
に向けてスタートします。国内に

十数台しかない最新鋭の機械を
導入するので、デザインの幅も広
がり、生産量は2倍になります。

小倉での繊維業の復活ととも
に、世界でストライプといえ
ば「KOKURASTRIPES」
と言われるよう、努力してまい
ります。

手ではできないこと、機械だ
からこそできること。安易さに逃
げずに織り続けた先人を敬いな
がら、新たな伝統へと繋げていけ
ばと思っています。



築城則子氏(工房織り風景)

縞 縞 本 店

公式サイト▶<http://shima-shima.jp/> オンラインショップ▶<http://shimashima.shop-pro.jp>

- 住 所：福岡県北九州市
小倉北区大手町3-1-107
- 電 話：093-561-8152
- 営業時間：10:00~18:00
- 定 休 日：水曜



縞 縞 井 筒 屋 店

- 住 所：福岡県北九州市
小倉北区船場町1-1
小倉井筒屋 本館6F
- 電 話：093-522-2618

